

○遠近で差が出る斜視について

A. P. C. T
F 45△Base in
N 5△Base in

A. P. C. T
F 5△Base out
N 45△Base out

遮閉試験（パッチテスト）

+3D 付加テスト

一言で言えば、XTだと完全に融像除去できていない場合、融像性輻湊（理論的には両眼開放でない起こり得ない輻湊だが、不完全な両眼分離や機序の判っていない近接性輻湊も含む）の助けをかりて少なくなっている可能性があるから、**真の融像性輻湊除去眼位**を見たいから。

一言で言えば、ETだと主に近方の固視目標までの調節性輻湊の多い・少ないで遠方と近方に差が出るので主に**調節性輻湊除去眼位**を見たいから。

鑑別

開散過多型（間欠性）外斜視
見かけ上の開散過多型（間欠性）外斜視
基礎型（間欠性）外斜視 ← つまり基礎型のこと。
真又は見かけ上の開散過多型（間欠性）外斜視

外斜視では、パッチテストにより遠近に差がなくなる場合は通常、赤線の2つの分類だが、間欠性外斜視の表から考えパンダは下記の分類に変えました。

非調節性輻湊過多型内斜視
非屈折性調節性内斜視

上段は近接性輻湊の過剰と言われている。下段は調節性輻湊の過剰だね！

原因は主に強い融像性又は強い近接性輻湊と言われている。

F 45△Base in
N 45△Base in

F 45△Base in
N 5△Base in

高 AC/A 比によって調節性輻湊で多くなくなっていた内斜位分 40△が、無調節にすることによって減少し、5△となる。

F 5△Base out
N 5△Base out

F 5△Base out
N 45△Base out

基礎型 XPT
(見かけ上の XPT)

真又は見かけ上の開散過多型 XPT

非屈折性調節性 ET

非調節性輻湊過多型 ET

もし遠近で偏位量が同等にならず近方がより多く増加したなら、輻湊不全型であったことになるね。この場合+3D付加したら近見も基礎眼位ずれのみとなり、低 AC/A が原因なら遠近同量になるはず？ ややこしいね～。

+3D 付加テスト
高 AC/A 比で近方の偏位量が少なくなっている場合があるので**調節性輻湊除去眼位**を見たいから。

鑑別

真の開散過多型（間欠性）外斜視
見かけ上の開散過多型（間欠性）外斜視

F 45△Base in
N 30△Base in

高 AC/A 比によって調節性輻湊で隠れていた内斜位分 25△が、無調節にすることによって表面化し、30△となるが、以前遠近で 15△の差がある。

F 45△Base in
N 45△Base in

高 AC/A 比によって調節性輻湊で隠れていた偏位分 40△が、無調節にすることによって表面化し遠近が同じとなる。

真の開散過多型 XPT

見かけ上の開散過多型 XPT

これで遠近とも基礎眼位ずれのみとなるが、

どちらも高 AC/A 比だが、上記の様に調節性輻湊除去眼位でも遠近で差が出る場合が**真の開散型**であるとパンダは思うなあ～。

斜視と眼球運動異常 P52 では遮閉試験又は+3D付加試験で近見斜視角が大きくなるのを見かけ上で変化がないものを真の開散過多型としており、斜視・弱視診療アトラス P110、視能学 P343 では、遮閉試験で近見で変化しないものを真の開散型、大きくなるものを見かけ上としている。視能矯正-理論と実際-増補第 3 版 P153 では、見かけ上のものと真性の外よせ過多型の区別は、20～30 分の遮閉により融像除去を行うか、近見における+3.0D のレンズ付加または縮瞳剤点眼などにより調節性内よせを除くことによって近見眼位の偏位度の変化を見る事により鑑別できる。真の外よせ過多型はこれらの方法を用いても XT>XT' のものであり、臨床的にはその頻度は少ない、となっている。斜視・弱視診療アトラス P110 では間欠性 XT の分類は臨床上大きな意味を持たず斜視・弱視診療アトラス P110 のように網膜対応や AC/A 比を参考にした方がよいとのこと。

| 型 | 斜視角 | AC/A 比 | 網膜対応 | 輻湊 | 原因 |
|-----------|------------------|--------|------|----|--------------|
| 輻湊不全型 XPT | XT < XT' | 低 | 正常対応 | 不良 | 調節性・融像性輻湊不良 |
| 基礎型 XPT | XT = XT' | 正常 | 正常対応 | 不良 | 融像性輻湊不良 |
| | | | 2重対応 | 良好 | 融像性輻湊ほぼ正常 |
| 開散過多型 XPT | 見かけ上 XT > XT' | 高 | 2重対応 | 良好 | 調節性輻湊が過剰 |
| | 真 XT > XT' | 高 | 2重対応 | 良好 | 調節性輻湊が過剰 + α |

輻湊とは輻湊4要素の総和なので、**輻湊不全型**は低 AC/A 比であり正常な融像性輻湊であったとしても補えないので輻湊が悪くなるのは当然。**基礎型**では正常対応の場合 AC/A 比は正常でも緊張性輻湊からの偏位を融像性輻湊が不良で補えないから輻湊は不良。**2重対応**なら、眼位が良好な時があるということなので調節性と融像性輻湊はほぼ正常であるはずなので輻湊は良好である。特に**開散過多型**は高 AC/A でありかつ2重対応なので輻湊は良好であるのは当然。

正常対応は融像性輻湊が悪い。視能学 P345

遠見 XT の 2重対応は正位の時、斜位近視になり易い。視能矯正学 P272 高 AC/A だから？